

遠ざけておきたい危険なもの

外傷・事故の原因となるもの

踏む・挟む(人為的要因)、天井設置型の扇風機、止まり木に巻かれたサンドペーパー、レッグチェーン、ハエ取り紙、壊れやすいおもちゃ、細い糸(布製品)、食用油、洗剤、洗い桶、使用中の調理器具、加熱された料理、掃除機、洗濯機、便器、家具、扉の開閉、大型の鏡、窓ガラス、犬、猫、小さな子供など

有害な煙や臭気

自動車の排気ガス、塗料、農薬散布、消毒薬、脱臭剤、家具光沢剤、テフロン加工した調理器具の加熱、揚げた料理、煙草とその煙、自動洗浄オープン、漂白剤、パーマ液、ヘアスプレー、新しいヘアドライヤーの蒸気、マニキュアや除光液、アンモニア、スプレー式洗濯のり、殺虫スプレー、蚊取り線香、防虫剤(ナフタレン、パラジクロロベンゼン)など

食べると有害なもの

鉛や亜鉛を含んだ重金属製品

カーテンウェイト、釣りの錘、はんだ、五徳、電気コード、メッキビーズ、ストラップやキーホルダー、アクセサリー類

有害植物

アボカド、ドクゼリモドキ、ニセアカシヤ、トウゴマ、クレマチス、ディフィンバキア、麦角、スズラン、ロコ草、子宝草、トウワタ、ナス属、オーク、キョウチクトウ、ジギタリス、ルピナス、フィロデンドロン、ポインセチア、ツツジ、アメリカツタ、イチイ、ヒマヤサギ、セコイヤ、コーヒー豆、タロイモ、ギンナン、アサガオ、ジャガイモの芽、ニチニチソウ、加圧処理された木くず、桜の樹皮、果実の種、鉢植えの土など

チョコレート、塩、アルコール



生体データ

身体的特徴

身体の大部分は灰色で、風切り羽はやや黒く、赤い尾羽が特徴です。嘴は黒く、目の周りは裸出して白くなっています。

健康な個体には脂粉が多くみられます。

小型種のコイネズミヨウムは、嘴に褐色の部分があり、尾羽は暗赤色です。

オスとメスは同形同色のため外見での区別はつきにくく、内視鏡検査や雌雄鑑別には遺伝子解析が必要となります。

体長	約33cm (小型種は約30cm)	孵化日数	21-30日
体重	350-600g以上 (小型種は300g前後)	巣立ち週齢	10-12週
寿命*	50-60歳(最長72歳)	自立週齢	12-16週
産卵数	2-4個	成熟週齢	4-6歳

*このくらいまで長生きしてほしいという“期待寿命”を示しています。

野生下での生態

生息地: アフリカ中西部(アフリカ西海岸の森林地帯、ガーナ～ビクトリア湖周辺、アンゴラ共和国～コンゴ共和国など)

気候: 熱帯雨林気候、サバナ気候

食性: 種子、果実(アブラヤシの実)など



鳥類臨床研究会 (c)2015 <http://www.jacam.ne.jp>
発行元 認定NPO法人TSUBASA
TEL 048-480-6077 <http://www.tsubasa.ne.jp>

※本紙を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

African grey parrot ヨウム



目	オウム目 Psittaciformes	科	インコ科 Psittacidae
属	ヨウム属 <i>Psittacus</i>	種	ヨウム African Grey Parrot (<i>Psittacus erithacus</i>)
小型種	コイネズミヨウム Timneh Grey Parrot (<i>Psittacus erithacus timneh</i>)		

鳥類臨床研究会



一途で愛情深い寡黙な哲学者

ヨウム African grey parrot

年に1~2回はクラミジア症の検査を含めた健康診断を受けましょう。

詳しくは、かかりつけの動物病院にご相談ください。

クラミジア感染率はヨウムで1.7%です。
(2002年~2012年、CBL調べ)

鳥のクラミジア症について

クラミドフィラ・シッタシの感染によって引き起こされる極めて重要な鳥類の疾患で、ヒトではオウム病としても知られる人獣共通感染症(ズーノーシス)です。本症は鳥類全般に発生しますが、その発生率は鳥種によって異なります。また、クラミジアに感染しても、その半数は症状を発現しません。感染した鳥の排泄物が同居鳥やヒトへの主な感染源となりますが、抗生物質の治療が効果的です。

飼い鳥としての特徴

大型インコの中では、トップクラスの人気者です。人に良くなつき、成鳥になれば強健です。

性格は温和で、やや用心深く神経質な個体が多いようです。声が大型インコとしてはさほど大きくなく、おしゃべりを覚えるとあまり叫ばなくなります。個体差はありますが、しゃべる能力は驚異的で、言葉や音を上手に操ります。

さらに、数・色・形・素材を識別することができ、知能の高さは人間の5歳児程度とされています。成長すると自我が目覚め、成鳥になる時に攻撃的になることがあります。

*食事は、野生下での状況から、高脂肪・高カルシウムの給与が必要とも考えられますが、飼育下では飼養状況にも左右されますので、かかりつけの獣医師にご相談ください。

発生しやすい病気や症状

- ・羽毛損傷行動 毛引きなど
- ・呼吸器疾患
- ・口腔膿瘍
- ・カルシウム欠乏症候群を含む栄養不良
- ・後鼻孔閉鎖症
- ・腺胃拡張症(PDD)
- ・オウム類の嘴・羽毛病(PBFD)
- ・その他の細菌・ウイルスおよび真菌感染症



健康状態のチェックポイント

顔

- 眼の周りの白い部分(裸出部)がいつも赤くないか
- 顔に汚れがないか

眼

- 眼は澄んでいて明るい
- 眼や眼の周りに汚れがないか

全体

- 体重は標準範囲か
- 元気、食欲はあるか
- 警戒心を持った真っ直ぐな姿勢をしているか
- 羽毛を膨らませていないか
- 仲間や人に対してコミュニケーションの反応があるか
- 歩き方に異常がないか
- 呼吸の様子や鳴き声に異常がないか

鼻

- くしゃみ、鼻水はないか
- 鼻孔は乾燥して開いているか
- 周囲の羽毛に汚れはないか

嘴

- 嘴は滑らかで色調に変化はないか
- 嘴は黒光りしていないか(脂粉の減少)

羽毛

- 羽毛は滑らかで明るい(色落ち、変色、透け、縁の荒れがないか)
- 羽色に変化はないか
- 脂粉が出ているか

腹部

- お腹が大きくないか
- しこりが出来ていないか

体表

- 体表に瘤や腫れがないか

足

- 足の皮膚には均一なうろこ模様(爬虫類紋様)がみられるか
- 爪は適切な長さか
- 脚力や握力に問題がないか
- 関節に腫れがないか

尾脂線

- 腫れていないか
- 汚れていないか

便

- 状態に問題はないか
- 数 硬さ 大きさ
- 色調 尿や尿酸の色や量

肛門(総排泄口)

- 周りに汚れがないか
- 赤いものが飛び出していないか